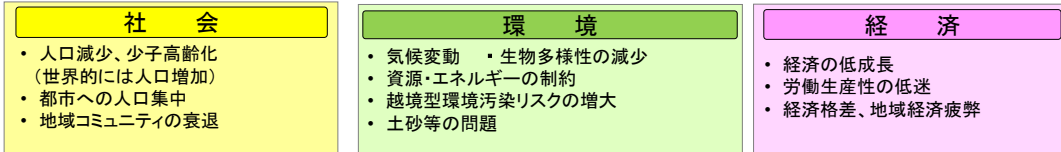


【計画策定の趣旨・目標年度】

- 環境の保全に関する取組の基本的な方向を示すマスタープランであり、現行計画(2012年版)策定時から環境を取り巻く状況が大きく変化していることなどから、前倒しで改定。
- 目標年度: 2030年度 (SDGs目標年およびパリ協定に基づく日本の中期目標年度と整合)

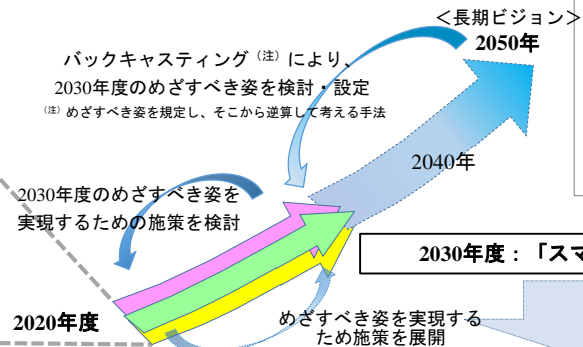
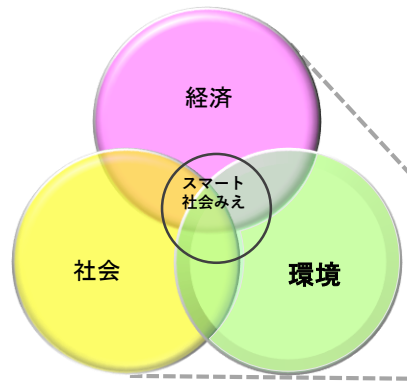
【環境を取り巻く情勢】



環境問題は経済・社会問題と密接に関連

複合的課題に対応し、環境、経済、社会の統合的向上をめざす。

【基本方針】めざすべき持続可能な社会



2050年：自律的かつレジリエント（強靱）なより高位の持続可能な社会


- ・ 多様な主体間の協創を通じた分野横断的な取組により、環境、経済、社会の統合的な向上が実現している社会
- ・ 新たな課題等に対し、迅速かつ柔軟にイノベティブな解決策を見出し実践できるような自律的かつレジリエント（強靱）な課題解決型社会
  - 再生エネの導入や省エネ化とともに、二酸化炭素回収有効利用（CCU）等の技術導入等が進められた「脱炭素社会（県域からの温室効果ガスの排出量が実質ゼロとなる社会）」を実現
  - 【参考】国の「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」における目標：今世紀後半のできるだけ早期に脱炭素化を実現することをめざすとともに、2050年までに80%の温室効果ガスを削減
  - 資源生産性が究極的に改善され、資源投入量・廃棄物量が極限まで抑制された「循環型社会」を実現
  - 自然環境等の地域資源を最大限に活用した「自然共生社会」を実現
  - 健全で恵み豊かな環境を継承している社会を実現

**S**ustainability (持続可能性)  
**M**ultiplication (= Innovation) (“掛け算”の発想に基づいたイノベーション)、  
**A**ctive Citizen (アクティブ・シチズン)、**A**utonomy (自律性)、  
**R**esilience (レジリエンス、強靱性)  
**T**ransformation (目標の実現に向けた変革)

【2030年度のめざすべき持続可能な社会: 「スマート社会みえ」】


**I 低炭素社会**

- ・ 気候変動対策として、温室効果ガスの排出削減と吸収源に関する「緩和策」や、気候変動が一定進行することへの「適応策」が着実に進み、長期ビジョン(2050年目標)で掲げる「脱炭素社会」の実現につながるような「低炭素社会」を構築
- ・ 再生可能エネルギーの導入、イノベーションの創出や活用を通じて、低炭素社会を実現
- ・ Society 5.0の実現により、生活の快適性や産業の生産性の向上が図られるとともに、イノベーション・エコシステムの構築が進められ、資源効率・炭素生産性の高い社会を実現



**II 循環型社会**


- ・ 廃棄物の不法投棄等の不適正処理がなく、適正処理が徹底され、県民が安心して快適に暮らせる社会を実現
- ・ ライフサイクル全体で、資源の有効利用、資源循環の促進等が図られ、廃棄物の発生・排出が極力抑制された資源生産性の高い循環型社会を実現
- ・ 排出された廃棄物は、地域の資源として最大限活用しつつ、近接する地域間で互いの特性に応じて資源を補完し支え合う「地域循環共生圏」を形成



(写真) 「三重県プラスチックスマートアクション」：プラスチックごみ対策のさらなる推進のため、三重県庁自ら、プラスチックスマート<sup>(注)</sup>な活動(マイバッグ・マイボトル運動を推進等)を行っています。  
 (注) ワンウェイプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底など、プラスチックと賢く付き合うことを意識して行動すること。

**III 自然共生社会**


- ・ 県民一人ひとりや事業者が生物多様性の重要性を認識し、暮らしの中や事業活動において生物多様性に配慮した行動がとられている社会を実現
- ・ 地域の自然環境等に基づく「生態系サービス」の持続可能な活用が促進され、快適で豊かな社会を実現
- ・ グリーンインフラの整備が促進されるなど、自然環境の有する機能を活用することによって、快適性や災害等に対するレジリエンス(強靱性)の向上が図られた社会を実現



(写真提供) (公社) 三重県観光連盟

**IV 生活環境保全が確保された社会**

- ・ きれいな大気・水環境等が保全されることなどにより、県民が安全・安心で、快適な生活を営める社会を実現
- ・ 県民が健全で恵み豊かな環境を楽しむことができる社会を実現



# 【概要版】三重県環境基本計画

第3章 施策体系と施策内容

## 【施策体系】

「スマート社会みえ」実現に向けた環境施策パッケージ

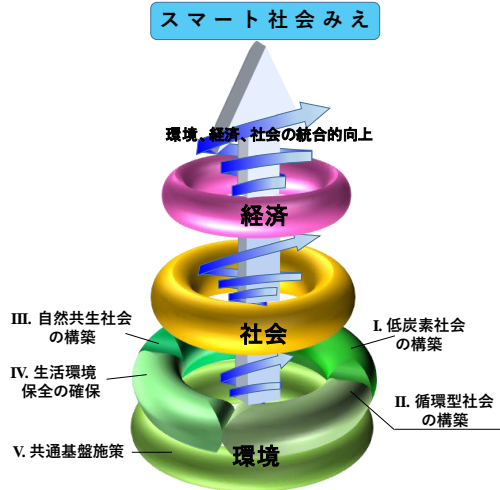
### 【基本方針】

持続可能な社会の実現に向け、協創を通じた分野横断的な取組を推進



スマート社会みえ

環境、経済、社会の統合的向上



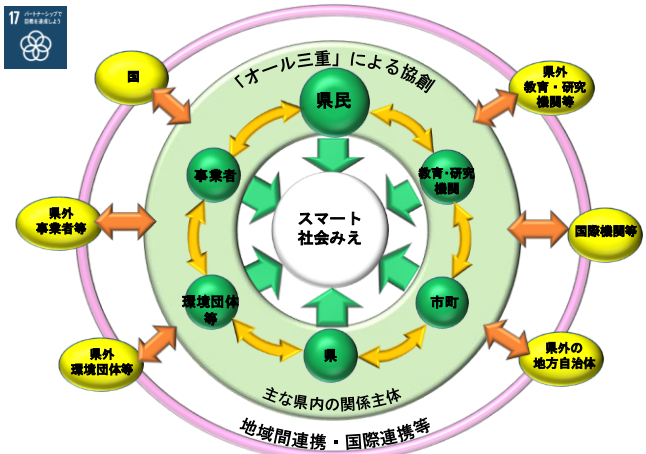
### 【環境施策の展開において重要となる視点】

- 視点1: 環境、経済、社会の統合的向上
- 視点2: 協創(パートナーシップ)によるアプローチ
- 視点3: イノベーションの促進・活用(多様な異種要素の“掛け算”による新たな価値創造)

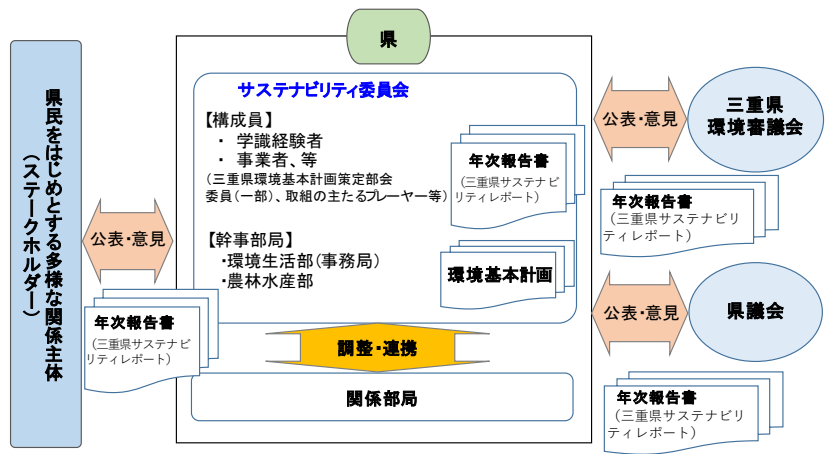
(注) 「スマート社会みえ」とは、2030年度のめざすべき持続可能な社会のことであり、詳細については、表面を参照のこと。

第4章 計画の推進

## 計画の推進イメージ (さまざまな主体との協創)



## 推進体制および進行管理



県民をはじめとするさまざまな主体と協創しながら、オール三重での計画の着実な実施に向けた取組によって、「スマート社会みえ」の実現をめざす。

サステナビリティ委員会において計画の進行管理を行う。  
年次報告書(三重県サステナビリティレポート)を三重県環境審議会および議会に報告し、公表するとともに、サステナビリティ委員会における進行管理に活用する。

## コラム (取組事例紹介)

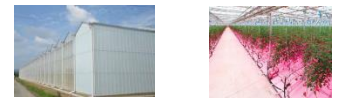
### 施策「I 低炭素社会の構築」に関連する取組事例

- 新電力事業を通じたエネルギーの地産地消の取組
    - 地域の資源の活用(廃棄物発電)
    - × 自治体出資型の新電力事業
    - × エネルギーの地産地消
- = 低炭素化の推進・地域活性化の推進

### ○ 松阪市内におけるICT等を活用した持続可能な次世代型農業の実践例

～未利用エネルギー等を有効利用し、IoT、LED等の技術を導入した植物工場の構築～

- 農業 × ICT・IoT × 未利用エネルギーの活用
- = 生産性(収量)の向上、安定供給  
収益性の改善・競争力強化・低炭素化  
・働き方改革(従業員満足度の向上等)



### 施策「II 循環型社会の構築」に関連する地域循環共生圏の形成に係る取組事例

- 異種事業者間の連携を通じた食品資源の循環利用の取組
- ～酒粕を原料としたエコフィード(飼料)で育ったブランド豚肉の開発～

- 食料品製造(清酒製造)業
  - × 資源の地域循環 × 畜産農(養豚)業
- = 廃棄物の削減・関係事業者の経営改善・競争力強化

### ○ 伊勢市内の老舗料理店におけるAIを活用した食品ロス削減の取組

- 飲食業 × AI(人工知能)
- = 顧客の利便性・満足度の向上・食品ロスの削減  
・収益性の改善・働き方改革(従業員満足度の向上等)

### 施策「III 自然共生社会の構築」に関連する取組事例

- 鳥羽市・神島自然環境資源等を活用し、鳥の子どもたちが主役となって取り組むエコツアー「神鳥っ子ガイド」

- 豊かな自然環境資源
  - × 地域資源を活用した観光振興・環境教育・学習
- = 自然環境保全の普及・啓発  
・体験型総合学習の推進・地域振興(過疎対策)

